

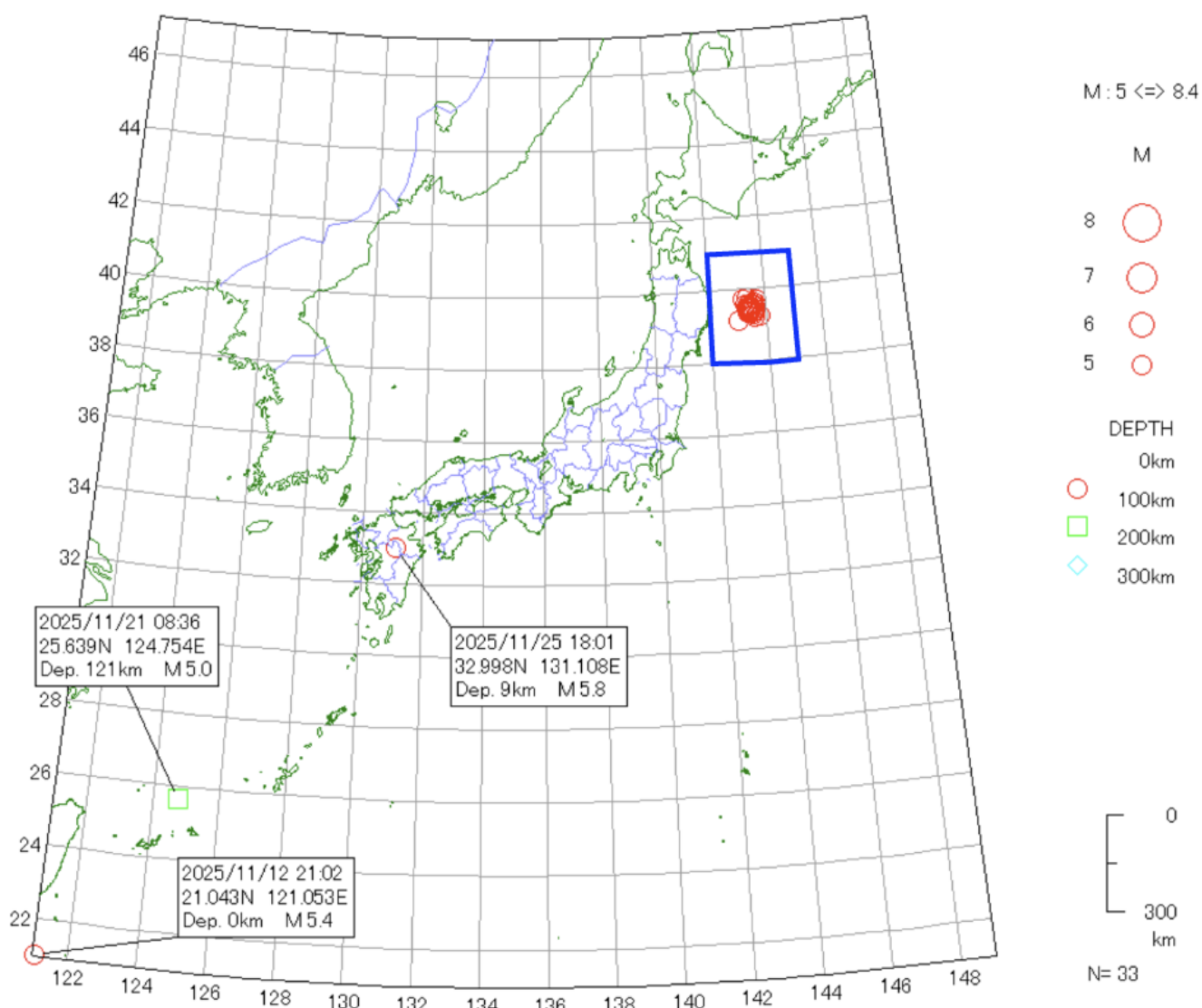


11月の地震活動概観

以下の図は日本列島およびその周辺で発生したマグニチュード5以上の地震を図示したものです。全部で33個の地震が発生しました。11月で特筆すべき活動は岩手県沖で非常に活発な地震活動が発生したことです。もし、この地震活動が陸域で発生していれば、毎日大きなニュースとなり、震度6強や7を観測する被害地震になった可能性が極めて高い活動でした。

11月に発生した最大の地震は11月9日に岩手県沖で発生したマグニチュード6.9の地震でした。それ以外では、11月25日に熊本県で9年ぶりに最大震度5強を観測したマグニチュード5.8の地震が目立った活動でした。熊本地震はまだ終わっていないという事を実感させた地震でした。

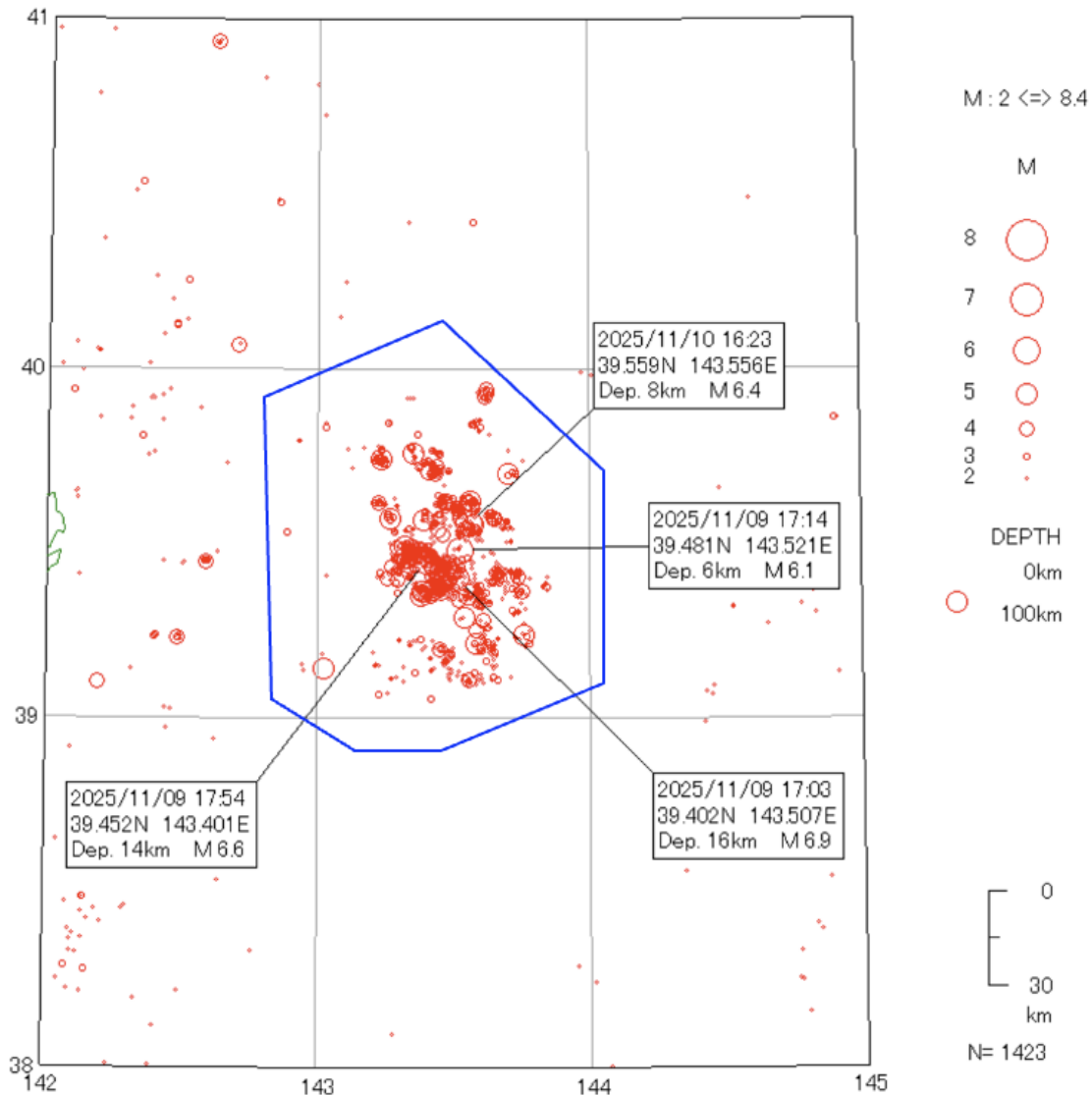
2025 11/1 0:0 — 2025 11/30 23:59



次のページにお示しする図は、上の図で青四角で囲んだ地域の地震活動の拡大図となります。



2025 11/1 0:0 — 2025 11/30 23:59



この岩手沖の地震活動では、マグニチュード6を超える地震が現在までに4個発生しています。2016年の熊本地震では最初に発生したマグニチュード6.4の地震で震度7が観測されており、陸域で発生したら、かなりの被害が出ておかしくないレベルの活動でした。

現在はかなり活動が落ち着いてはきましたが、当該地域(上の図で青線で囲んだ地域)で1ヶ月間にマグニチュード2以上の地震が1,258個発生したことがわかっています。

幸い地震活動はいまのところ順調に落ち着いてきていますが、もう少し注意が必要と考えています。

読売新聞の報道から

12月6日の読売新聞に公表されたニュースで、7月のカムチャッカ半島沖の地震に伴う津波警報の際に、避難した住民の過半数が車で避難しており、国が「原則徒歩避難」としている事が浸透していないという記事がありました。

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20251206-GYT1T00282/>

<https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/yomiuri/nation/20251206-567-OYT1T00282>

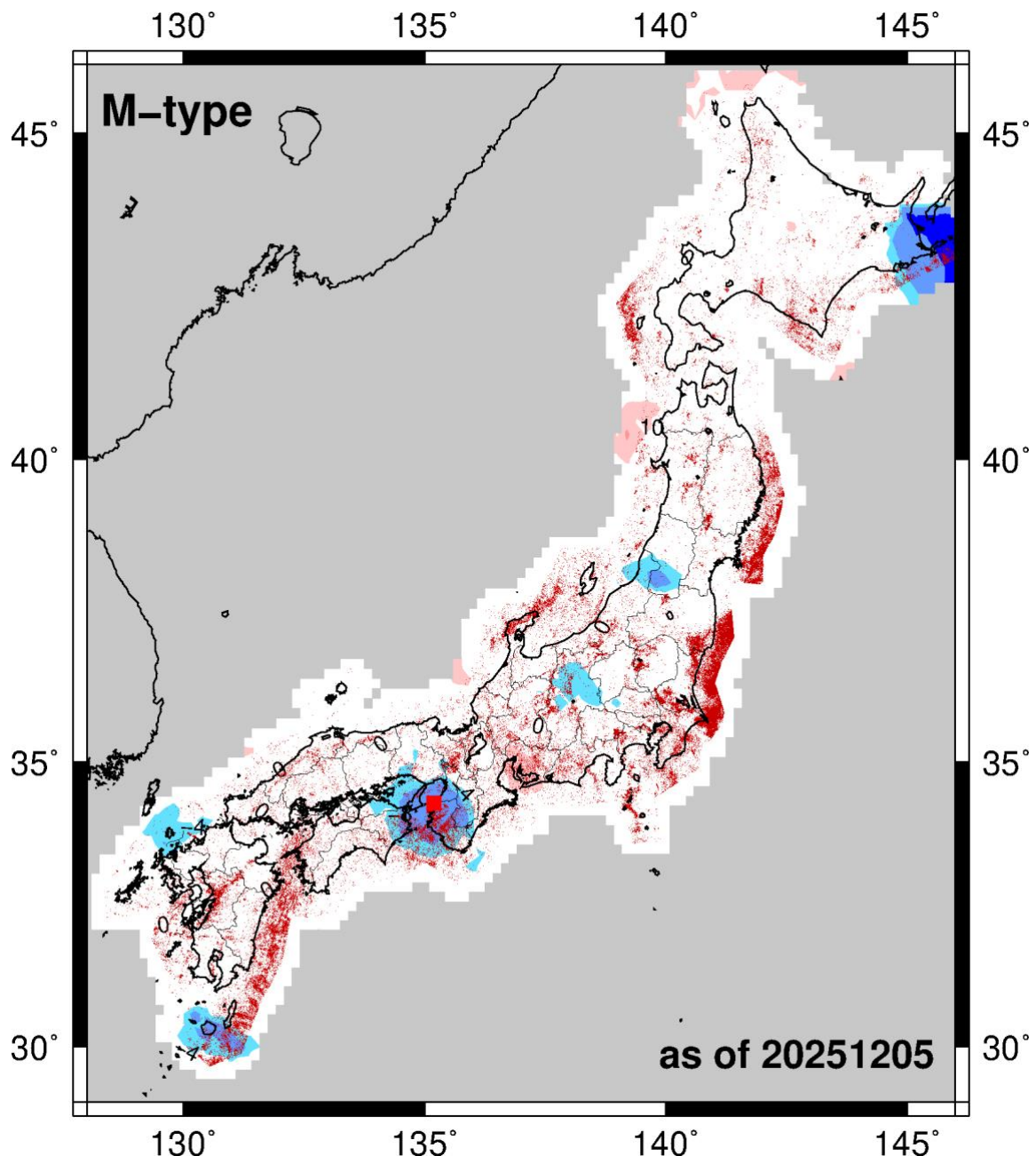


この国の方針はある意味、昔の常識にとらわれたもので、今後改訂されると思いますが、一番重要なのは、東北沖の地震と今後発生が危惧される南海トラフでは海岸までの津波到達時間に大きな差があるという事を啓発し、ご自身がお住まいの地域に適した避難方法が何かを住民が判断できる情報を知らせていく事かと思えます。

具体的にはカムチャッカのような遠地からの津波と東北沖(日本海溝沿い)での津波は津波到達まで比較的時間の余裕がある事、南海トラフの場合は数分で津波がやってくる場所がある事を周知して、適切な避難行動がとれるようにする事だと考えます。

日本列島陸域の地下天気図®

11月3日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は12月5日時点の M タイプの地下天気図をお示しします。





今回の解析でも北海道東部の地震活動静穏化(図中の青い領域)が、まだ消えていない事がわかりました。12月2日に根室半島沖でマグニチュード5.2も発生し、根室・釧路沖の活動が少しずつ活発化しているようですが、陸域を中心とした地下天気図解析では静穏化が継続しているという計算結果になっています。この地域ではまだ M6クラス発生の可能性が残されていると考えています。

それ以外では、紀伊半島付近、九州北部での地震活動静穏化が今週の地下天気図でも確認されています。さらに紀伊半島を中心とした地震活動静穏化の異常は11月24日のニュースレターでお示した東海地方以西の地下天気図でも確認する事が可能であり、確度の高い異常と考えています。